

# with after コロナ期における 雪かき活動ガイドライン



2020年12月初版発行  
2021年12月第2版発行  
日本雪工学会 除雪安全行動研究委員会

## はじめに

2020年12月、コロナ禍における初めての冬を迎えるに当たり、雪かき活動(除雪ボランティア、共助除雪、一斉雪下ろし、除雪安全講習など)の実施・継続に向けて、どのような方針で、どのような対策を施して取り組めばよいのかを議論し、その成果を「withコロナ期における雪かき活動ガイドライン」(以下、雪かき活動ガイドライン)として公表しました。

その根底にあったのは、「何かあったらどうするのか…」ではなく、「できることからやる!」という強い意志であり、全国の雪かき活動に関わる多くの仲間たちを後押ししたいという思いでした。

そして、2020年度の冬は大雪となりました。除雪ボランティア団体のアンケート調査結果<sup>1</sup>をみると、雪かき活動を実施したすべての団体が除雪ボランティアの募集範囲を同一市町村もしくは隣接市町村に限定しており、対応に苦慮しながらも活動を行いました。その一方で、新型コロナウイルス感染予防の観点から実施を見送った団体もあります。また、約6割の団体は雪かき活動ガイドラインを読んでおり、雪かき活動の判断、準備、運営などに役立てていただくことができました。

あれから1年が経ち、コロナ禍となって2度目の冬を迎えます。この間、新型コロナウイルス感染予防に関する様々なエビデンスも増えています<sup>2</sup>。また、国民のワクチン接種が進み、あらゆる場面で新しい生活様式が定着しつつあります。

これらの状況を踏まえ、「withコロナ期」に「afterコロナ期」の視点も加え、雪かき活動ガイドラインの一部を改訂し、「with/afterコロナ期における雪かき活動ガイドライン(第2版)」を作成しました。主な改訂箇所については、マーカーを施したり、「改訂」のマークを付けたりしています。

各地域・団体においては、本ガイドラインを基軸としつつ、それぞれ実情を踏まえた上で、さらなる配慮や工夫を加えたり、独自の判断や対応を行うなどして、雪かき活動に取り組んでいただければと思います。

2021年12月  
日本雪工学会除雪安全行動研究委員会  
委員長 諸橋和行

### 【日本雪工学会 除雪安全行動研究委員会について】

除雪安全行動研究委員会は、雪による事故・犠牲者を軽減するための手段と実践について研究することを目的に、日本雪工学会内に設置されている研究委員会のひとつです。住民が雪処理についてより適切でかつ安全な行動を日常から行うための啓発手法、防災教育としての展開の可能性、望ましい行動変容に至るプロセス等について検討及び実践的研究を行っています。

- 1)小西信義・筒井一伸、コロナ禍における雪かきボランティアの実態-2020-21年冬季の実施状況に関するアンケート調査結果-、第37回寒地技術シンポジウム論文集、2021年11月
- 2)スポーツ庁、「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」、2021年2月17日



# ガイドラインの基本姿勢

本ガイドラインは、以下のような基本姿勢(共通認識)に基づいて、作成しました。

1

**できることを考え、  
できることから!**

「何かあったらどうするのか…」それを言い始めたら、結論は「中止」しかなくなってしまいます。コロナ禍であろうがなかろうが、雪国には毎年雪が降ります。雪かきの支援を心待ちにしている人たちがたくさんいます。できない理由を探すより、できる手段をみんなで考え、取り掛かってみましょう。

2

**「安全の確保」とともに  
「不安の解消」を!**

雪かき活動は、雪かきをする人と雪かきをしてもらう人がいてはじめて成り立つ活動です。新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、感染症リスクからの安全の確保に努めるとともに、お互いの不安感を解消し、納得感をもって活動を行いましょう。

3

**「感染の防止」に加え  
「世間への対応」を!**

ボランティアと受援者の両者が納得していても、ボランティアのご家族や受援者のご近所さんの理解も必要です。周囲からどう思われるかということも気になってしまいます。誰のための、何のための活動なのかをしっかりと認識し、地域の理解を広げていくことも重要な視点です。

4

**with after コロナ期だから  
こそ、新たな可能性に挑戦!**

「新しい生活様式」が普及してきた中、テレワークやリモート会議、オンライン診療といったさまざまな工夫が生まれてきました。雪かき活動でも、これまでとはちょっと違った視点から新しい可能性を探してみませんか?

5

**「雪かきで地域は育つ」の  
流れを止めない!**

雪国の課題に向き合い、その解決に向けて各地で地域を明るくするユニークな「雪かき活動」がはじまり、それぞれがゆるくつながりながら、年々進化をとげてきました(書籍「雪かきで地域が育つ」を参照)。ここに至るまでに10年以上の蓄積があります。コロナ禍を理由に途絶えさせることなく、このマインドは絶えず持ち続けましょう。



「雪かきで地域が育つ 防災からまちづくりへ」  
上村 靖司、筒井 一伸他編、2018年、コモンズ

## 改訂のポイント

今回の改訂では、以下の点が大きく変わりました。

- **新しく判明したエビデンスに基づき、感染予防対策を見直しました。**
  - ・「不織布マスクの着用」「手洗い・アルコール消毒」「換気の徹底」を雪かき活動で徹底してほしい『感染防止の3つの基本』としました。
  - ・マスクは、ウレタンマスクなどではなく、必ず不織布マスクを着用することとしました。
  - ・屋内会場では収容率要件を50%以下とし、黙食・黙飲を徹底することを明記しました。
- **ワクチン接種や抗原・抗体・PCR検査の浸透を踏まえ、雪かき活動の対応方針を見直しました。**
  - ・体調管理や行動履歴の記録を把握した上で近隣地域以外からの除雪ボランティアの受け入れも可能とすることとしました。
  - ・雪かき活動における参加者の参集範囲や実施の判断については、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置などともなう行動制限や外出自粛に留意し、市町村の動向や意向も踏まえることを明記しました。
- **「afterコロナ」を見据え、感染予防対策を見直しました。**
  - ・屋外で人と十分な距離を確保できる場合には、雪かき活動時のマスクの着用は不要にすることとしました（ただし会話をする時は不織布マスクを着用）。

## ガイドラインの基本方針

with after コロナ期における雪かき活動の基本方針は、以下のとおりとします。

01 あらゆる場面で、まず感染症予防対策を徹底する。

02 関わるすべての人が安心感と納得感を得られるように。

03 受援者と除雪ボランティアの交流を途切れさせない。

### 雪かき活動に関わる人たち



#### 活動団体・受入地域

除雪ボランティアを受け入れる団体や地域の方たちです。行政や社会福祉協議会、町内会、NPOなど様々です。

#### 受援者

雪かきの支援を必要とされる方たちです。

#### 除雪ボランティア

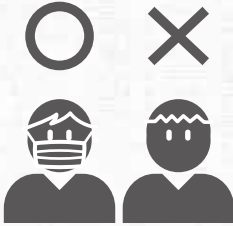
雪かき活動をすることで、受援者を支える方たちです。都市圏などからの希望者もいます。

## 01 あらゆる場面で、まず感染症予防対策を徹底する。

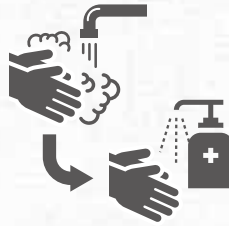
「新しい生活様式」をしっかりと実践し、一人ひとりが基本的な感染対策を徹底することを大前提とし、雪かき活動においては特に以下のことを徹底してください。

### 雪かき活動で徹底してほしい

#### 感染防止の3つの基本



不織布マスクの着用



手洗い・アルコール消毒



換気の徹底

\*マスクは、ウレタンマスクではなく、必ず不織布マスクを着用しましょう。

#### さらに冬の感染症予防対策もしっかりと

冬は寒さや外気の乾燥に加え、夏場より積極的に水分を摂らないため、体内の水分量が減少し、免疫力が低下しがちになります。また、低温・低湿度の環境はウイルスにとって最適な環境であり、夏場よりも長く生存できるといわれていますので、こまめな消毒が欠かせません。

例年11月下旬～12月頃から季節性インフルエンザも流行しますし、ノロウイルスなどを病原体とする胃腸炎なども流行してきますので注意が必要です。

#### 冬の換気対策



- ✓ 暖房器具と併用しながらの換気が望ましい。
- ✓ 換気中もエアコンを付けておくことで、気流を生み、換気の効率アップにもつながる。
- ✓ サーキュレーターを斜め上、窓の方向へ向けると、すばやく換気できる。
- ✓ 必要に応じ、CO2測定装置を設置する等により、換気状況を常時モニターし、1000ppm以下を維持することが望ましい。

#### 冬の湿度対策



- ✓ 室内の空気が乾燥していると、飛沫が急激に乾いてエアロゾル(空气中に漂う微細な粒子)になる量が増えるため、湿度60%を目安に加湿する。

# 01 あらゆる場面で、まず感染症予防対策を徹底する。

## 感染症リスクが高まる場面とその対策・留意点

これまでの感染拡大の経験から、感染リスクが高い行動や場面が明らかになってきています。新型コロナウイルス感染症対策分科会では、感染リスクが高まる「5つの場面」を提言としてまとめています。これらを参考に、雪かき活動において感染リスクが高い場面と対策(例)を整理しました。

### 場面 1 屋内での集まり



正面・隣は避けて座る



換気の徹底

#### 【想定される場面】

- ☑ 開会式・作業説明、準備体操(オリエンテーション)、雪かき安全講習、昼食・休憩、閉会式、スタッフの反省会など。

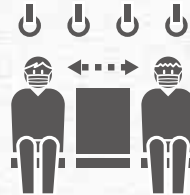
#### 【感染リスク】

- ☑ 冬場の屋内集会のため3密の環境が生じやすいうえ、ウイルスが生存しやすい低温・低湿度の環境になりやすい。

#### 【対策・留意点】

- ☑ **会場の収容率要件を50%以下とする。**
- ☑ 屋内で集まるプログラムは短縮または省略する。
- ☑ 大声での発声や歌唱、近接した距離での会話は控える。
- ☑ ハンドマイクやメガホンなど、大声を出さなくても良い工夫をする。
- ☑ こまめに換気し(30分に1回程度)、湿度を維持(60%を目安)する。
- ☑ 利用開始前後に、使用する部屋(ドアノブ、電気のスイッチ、テーブル等)、使用した共有スペース(玄関やトイレのドアノブ、手すり等)を消毒する。

### 場面 2 会話や食事



移動中も予防対策を



黙食・黙飲

改訂

#### 【想定される場面】

- ☑ 自宅からの移動時(電車、バス等)、乗り合いの車内、雪かき活動時。
- ☑ 支援者どうしの休憩時や食事中。

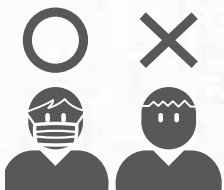
#### 【感染リスク】

- ☑ マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やエアロゾル(空気中の微粒子)での感染リスクが高まる。

#### 【対策・留意点】

- ☑ 会話する時は原則マスクを着用(**フェイスシールド、マウスシールドはマスクに比べ効果が弱いことに留意が必要**)。
- ☑ **スポーツドリンク等の飲料については、ペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙コップで提供する。**
- ☑ 飲食を行う際は、座の配置を斜め向かいにし、箸やコップは使いまわさず、一人ひとりです。
- ☑ 受入団体や事務局で予備のマスクを準備しておく。
- ☑ **黙食・黙飲を徹底する。**

### 場面 3 居場所の切り替わり



活動中以外はマスク厳守



場所が変わっても気を緩めず

#### 【想定される場面】

- ☑ 受付時、屋外の現場に出かけるとき、休憩するとき、雪かき活動から屋内に戻ってきたときなど。

#### 【感染リスク】

- ☑ 休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により感染症リスクが高まる可能性がある。
- ☑ 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例がこれまで確認されている。

#### 【対策・留意点】

- ☑ 居場所が切り替わる前後で「新しい生活様式」の実践を関係者に再度促す。



コロナ以前の屋内での集まり(事前安全講習の様子)

※除雪ボランティアが宿泊をともなう場合、感染リスクを考慮すると、宿泊を伴わない雪かき活動が望ましい。もし宿泊が必要となる場合は、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底している宿泊施設を選ぶこと。

[参考]「分科会から政府への提言 感染リスクが高まる『5つの場面』と『感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫』」(新型インフルエンザ等対策有識者会議 新型コロナウイルス感染症対策分科会、2020年10月)

## 01 あらゆる場面で、まず感染症予防対策を徹底する。

### with/after コロナ期における雪かき活動の対応方針

with/after コロナ期においては、感染リスクが高まる場面での対策を徹底し、以下の対応方針で雪かき活動を実施することとします。

#### 活動前の対応

##### 1. 雪かき活動の方針を関係者間でしっかり協議する

- 雪かき活動に関わる団体どうしで、with/after コロナ期における活動方針（実施の有無も含めて）や除雪ボランティアの募集範囲等を合意の上で決定する。
- オンラインなどを活用して打ち合わせや準備を進め、集まる人数や回数を減らす。

##### 2. 国及び都道府県が発する行動制限に留意する

- 緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等にもなう行動制限や外出自粛に留意し、市町村の動向や意向も踏まえて、参加者の参集範囲や実施の有無を判断する。

##### 3. 受援者の気持ち、困り事、ニーズに寄り添いながら準備する

- 受援者は雪かきの支援を待っている一方、コロナ禍の受け入れを心配している。個々の状況を把握し、例年の活動が可能なのか、新たな対応が必要となるのかを確認・検討する。※次ページの方針02を参照。

##### 4. 感染者が確認された場合の対応及び役割分担を明確にしておく

- 受援者、除雪ボランティア、運営スタッフを問わず感染者が確認された場合に備え、対応フローと役割分担を決めておく。接触者の名簿と活動記録をとっておく。

##### 5. 除雪ボランティアは、不特定多数の募集は原則行わない

- 不特定多数の募集は避け、つながりや関係性のある方々や団体に限定する。
- 緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等の状況に留意し、体調管理や行動履歴の記録を把握した上で、近隣地域以外からの除雪ボランティアの受け入れも可能とする。

#### 活動時の対応

##### 1. 近距離で接触せずに、会話を避けて雪かき活動を実施する

- なるべく人と人とが近距離で接触しないようにし、会話を避けて雪かき活動を実施する。この状況下では、運動強度が高い雪かき作業中はマスクを着用しなくてもよい。
- 受援者と除雪ボランティアとの接触は控える。もしくは、不織布マスクを着用し、距離を保った状態での挨拶や短い会話にとどめる。

##### 2. 除雪ボランティアは小グループで、事前登録とする

- 万が一、感染者が出た際のことを考え、感染経路を把握しやすくするため、小グループ（5名程度）での雪かき活動とする。
- ボランティアの場合は事前登録が基本。当日の受付においては、マスクの着用、手指消毒、検温など「新しい生活様式」を徹底する。
- 可能な範囲で、除雪ボランティアのワクチン接種の有無や各種検査による陰性結果を事前確認することで、市町村を跨いだ広域的な除雪ボランティアの受け入れを可能とする。
- ただし、ワクチン接種が完了したり、各種検査が陰性結果を示したりしても、ウイルスが潜伏している可能性は否定できないことから、不織布マスクの着用など感染予防対策の徹底を継続する。

※地域コミュニティ内（町内会・集落など）において、毎年のように自主的に行っている雪かき活動（要支援世帯の除雪、歩道や公民館等の共同除雪など）については、「マスク着用」「間隔をあける」「少人数で」「会話を控える」などの感染対策を行った上で、例年通り活動を継続してください。

## 02 関わるすべての人が安心感と納得感を得られるように。

毎年必ず雪は降ります。雪かきも毎年必要であり、毎年同じ方が雪かきで支援を必要としています。しかも高齢化に伴い受援者は年々増加しています。豪雪になれば受援者はもっと増えます。コロナを理由に雪かき活動を急に止めるわけにはいきません。

with/afterコロナ期における人々の不安に向き合い、安心感と納得感を大切にして雪かき活動を続けていきたいと思います。



### 雪かき活動において想定される不安



受援者

- 雪かきをお願いしたいけど、自分たちがコロナになってしまうと大変。
- 雪かきしてもらっても、コロナが心配で、挨拶もできないし、お返しもできない。

- 雪で困っている人の手助けはしたいけど、万が一自分がコロナに感染していたら、うつっちゃうかも。
- 除雪ボランティアどうしの感染もありえるかもしれない。



除雪ボランティア

- 地域の雪の問題を解消したいけど、この活動がきっかけでクラスターが発生したら、みなさんに申し訳ないし、今後の活動自体も継続しづらい。
- 他のイベントが中止や自粛になっている中、雪かき活動を実施してもいいのかわからない。



活動団体・受入地域





## 安心感と納得感を得るために

### 1. まずは受援者の「不安」を「安心」に

- ✓ 新型コロナウイルス感染症が重症化しやすいのは、高齢者と基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、心血管疾患、肥満）のある方です。年代が上がるほど重症化率は高まります。まず、受援者がどのような方か、妊娠している方か、重症化のリスクはどうか、ワクチン接種は行ったかなどを可能な範囲で把握しておきます。
- ✓ その上で、特に不安を感じている受援者に対しては、雪かき活動における感染症予防対策や基本方針をていねいに説明し、安心していただくように心がけます。同意が得られない状況で、無理に雪かき活動を実施することはできません。
- ✓ 受援者の「不安」を「安心」に変える最も重要なポイントは、受援者と顔見知りの方、日頃から信頼されている方が説明に当たることです。

### 2. 近隣住民の「不安」にも対応

- ✓ 受援者の近隣の方々が、地域外からの除雪ボランティアが作業している様子を見て、不安に思う状況も想定されます。
- ✓ 受援者の地域内でトラブルが生じないように、町内会長や近隣住民にも雪かき活動の内容や基本方針を説明の上、同意を得られるように配慮しましょう。

### 3. 「世間」への対応にも配慮

- ✓ with/afterコロナ期は、雪かき活動を実施するだけでも「リスク」はあります。それは感染のリスクだけでなく、「万が一感染者が出たら周囲から非難や批判をされてしまう」という風評リスクも含まれます。
- ✓ これに対しては、「基本方針01あらゆる場面で、まず感染症予防対策を徹底する」を明確に打ち出し、周知するとともに、その実践に最善を尽くすしかありません。さらに、雪かき活動中に感染症が発症した場合に備えて、対処手順（連絡体制、医療的措置、リスク管理など）をあらかじめ関係者で決めておきます。

### 4. それでも状況の変化や理解が得られない場合は勇気ある撤退を

- ✓ 地域内及び周辺地域の新型コロナウイルス感染拡大状況、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等にとまなう行動制限の状況によっては、雪かき活動の大幅な変更や中止といった事態も想定されます。
- ✓ 雪かき活動に関わる人々の間で合意や納得の得られない状況下では、活動の実施・継続は困難であり、勇気ある撤退も十分ありえます。
- ✓ ただし「中止」をしたとしても、受援者の雪かき問題は解決されていません。そのまま放置しては、雪の重みで家屋が倒壊したり、外出できずに日常生活に支障をきたすなど、命の危険にさらされてしまいます。代替りの対策を事前に検討して備えておきましょう（除雪業者に委託したり、町内会で雪かきをしたり、行政で緊急対応するなど）。

## 03 受援者と除雪ボランティアの交流を途切れさせない。

雪かき活動は、他の災害ボランティアと比べると、「交流」が大きな特徴であり、それを活かして地域づくりの一環として活動を行ってきました。with/afterコロナ期においては、受援者と除雪ボランティアとの交流が制限されることが想定されますが、交流あつての雪かき活動という側面もあります。支援者と受援者との交流機会を持つための新しい取組に挑戦してはいかがでしょうか？



### 雪かき活動ならではの特徴

1. 毎年必ず雪は降る。雪かきも毎年必要。
2. 毎年同じ方が雪かきで困っている。災害が起きなくても支援が必要な人を特定できる。
3. 受援者が活動場所に居る(彼らにとっての平時・日常がある)。
4. 雪かき活動は、達成感(満足感)を得やすい。

5. 受援者と除雪ボランティアとの交流機会を作りやすく、交流から生まれる様々な価値が地域を明るくする。



### 交流機会が制限される場面(想定)

- 受援者にお会いしたり、お話ができない場合がある。
- 地域の人たちの炊き出しがなかったり、食事会ができない場合がある。
- 地域の人たちと一緒に雪かき活動ができない場合がある。



「交流」が特徴だけど、コロナ禍だと...

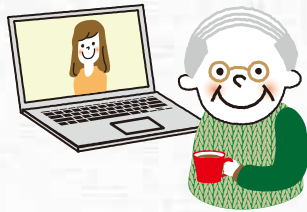
受援者や地域の人たちとの交流は、雪かき活動の醍醐味でもあります。交流機会が制限されたとしても、会いたい気持ちはお互い同じです。このような場合は無理をせず、次に会える日までぐっと我慢しましょう。

### 03 受援者と除雪ボランティアの交流を途切れさせない。



## with/after コロナ期だからこそ 新しい交流機会にチャレンジを!

#### 01 オンライン交流



直接にお会いすることが難しい場合、オンラインを活用して、「顔が見える関係」を作ります。例えば、活動前に受援者と除雪ボランティアがリモートでお話しておくことで、活動当日に交流機会が限られてもお互いのコミュニケーションが円滑になります。活動後のオンライン交流も喜ばれるでしょう。

機器の利用が苦手な世帯には、活動団体が接続のサポートをしてあげましょう。除雪ボランティアからのお手紙も喜ばれます。

#### 02 マスク越しでも気持ちは伝わる



マスク越しだと自分の表情や気持ちが相手に伝わりづらいこともあります。例えば、手書きで名前を書いておくことでマスクが名札代わりとなり、初対面の方でも自分を認識してくれやすくなります。

マスクがお互いのコミュニケーションを円滑にする手助けをしてくれるかもしれません。

### ＼ 地域の声 /

雪かきしてくれるだけでも十分だよ

with/afterコロナ期は、これまでの雪かき活動ならではの交流が続けられないかも知れませんが、地域で困りの「雪かき」をお手伝いしてくれるだけでもいいんです。「雪かき」を中心に考え、まずはできることから!

民生委員さんから「今年はコロナが流行してるから、ボランティアさんには直接会わないように」と言われてしまったよ…。家に上がってお茶を飲んだりお話もしたかったけど、今年は寂しいなあ。でも、雪かきをやってもらえるだけでも十分ありがたいよ。



町内の役員たちで話し合っ、今年の雪かきボランティアたちと地元の人たちとの食事会を中止することになりました。でも、せっかく作業してもらうんだから、せめて昼食だけでも作ってあげようということになりました。コロナ禍でも少しでもボランティアの受け入れ訓練になれば、と考えを切り替えてみようと思います。



すぐ使える

# お役立ちツール

with/afterコロナ期において、各地の雪かき活動が円滑に展開できるようにお役立ちツールを用意しました。ファイルをダウンロードいただき、適宜ご活用ください(追加・変更等も可能です)。

また、万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、保存期間(少なくとも1月以上)を定めて保存しておくことが望ましいです。

お役立ち  
ツール



## 01: 感染症予防対策チェックリスト

説明	雪かき活動に関係する人たち(「活動団体・受入地域」「除雪ボランティア」「受援者」)が、雪かき活動の事前事後の場面で感染症予防対策を確認するためのチェックリスト
地域ごとの カスタマイズ	既存の項目を除外したり、別の項目を挿入したりするなど、活動の内容や地域ごとの対策方針に応じてカスタマイズします。

### ▶ 活動団体・ 受入地域用

感染症予防対策チェックリスト (活動団体・受入地域用) (1/2)

欄 目 録  
編集先: [ ]

項目	チェック項目	チェック
活動団体・ 受入地域 関係者 向け	雪かき活動の目的、実施スケジュール(実施日、実施時間)について、実施要領表を作成して共有していますか?	Yes No
	実施要領表に必要事項(参加人数、ボランティアの人数)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施時間(開始・終了時間)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No	

### ▶ 除雪ボラン ティア用

感染症予防対策チェックリスト (除雪ボランティア用)

欄 目 録  
編集先: [ ]

項目	チェック項目	チェック
除雪ボラン ティア 向け	雪かき活動の目的、実施スケジュール(実施日、実施時間)について、実施要領表を作成して共有していますか?	Yes No
	実施要領表に必要事項(参加人数、ボランティアの人数)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施時間(開始・終了時間)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No

### ▶ 受援者用

感染症予防対策チェックリスト (受援者用)

欄 目 録  
編集先: [ ]

項目	チェック項目	チェック
受援者 向け	雪かき活動の目的、実施スケジュール(実施日、実施時間)について、実施要領表を作成して共有していますか?	Yes No
	実施要領表に必要事項(参加人数、ボランティアの人数)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施時間(開始・終了時間)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No
	実施要領表に実施場所(住所)が記載されていますか?	Yes No

## 02 感染症拡大予防啓発ポスター

説明	活動団体・受入団体が感染症予防対策を徹底して雪かき活動を行っていることを周知するためのポスター
用途	ウェブサイトや活動当日の受付などに掲示します。
地域ごとのカスタマイズ	既存のアイコンを外したり、別のアイコンに差替えたりするなどして、活動の内容や地域ごとの対策方針に応じてカスタマイズします。

### ▽活動団体・受入地域の対策周知用



### ▽除雪ボランティアへの協力依頼用



### 改訂のポイント

- ・不織布マスク着用に関するアイコンを追加
- ・黙食・黙飲の協力に関するアイコンを追加
- ・雪かき中のマスク着用に関する表記を修正

## 03 健康チェックシート(活動当日用)

説明	雪かき活動に関係する人の雪かき活動当日の健康状態を確認するチェックシート
用途	各自で健康確認を行う際に使用します。
地域ごとのカスタマイズ	雪かき活動の日付、活動名、チェックシートの用途などを書き換えることができます。



## 04 健康観察と行動の記録シート

説明	雪かき活動日前後7日間の健康観察と行動履歴をする記録するシート
用途	雪かき活動に係る関係者に対して行動履歴を記録する際に使用します。
地域ごとのカスタマイズ	体調の悪化が生じた場合の連絡先などを書き換えることができます。

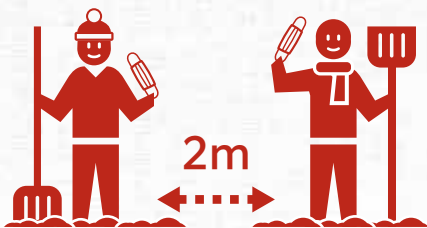


Q

雪かき作業中にマスクを外しても大丈夫なの？

**A. 基本的には外してOK!ただし、会話はNG!**

運動強度が高いと考えられる雪かき活動においては、マスクを着用することにより十分な呼吸ができず、人体に悪影響を与える可能性もあります。屋外で人と十分な距離(少なくとも2m以上)を確保できる場合には、マスクの着用は不要と考えます。ただし、屋外であっても会話をする時は、不織布マスクを着用しましょう。



- 休憩時は、周囲の人との距離を十分にとった上で、水分補給などこまめにとりましょう。
- 飛沫の拡散予防のため、マスクを外した大声での会話は控えてください。



**地元ベテランは汗をかかない!?**

大汗をかくほど激しい作業ではなく、適度に体がポカポカする程度の作業量が望ましいです。汗が冷えて風邪をひくことも防止できます。



**新型コロナウイルスの感染が懸念される状況におけるボランティア・NPO等の災害対応ガイドライン**

ボランティア・NPO・企業等の方々、および新たに災害時の支援を検討される「支援者」を対象に、新型コロナウイルス影響下での災害対応の判断基準となる指針が記載されたガイドラインです。また、行政・民間が出している支援や制度に関するガイドラインもまとめられています。  
※作成：全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)



**新型コロナウイルス感染拡大防止下における災害ボランティアセンターの設置・運営の考え方ガイドライン(第2版)**

新型コロナウイルス感染拡大防止下において、都内で災害が発生した際の災害ボランティアセンターの設置・運営に関するガイドラインです。  
※作成：東京ボランティア・市民活動センター(TVAC)



**厚生労働省 新型コロナウイルス感染症関連情報**

新型コロナウイルス感染症の感染者数や病院の稼働状況、万が一の感染者発生時の相談窓口、最新の政府発表などが掲載されています。



**新型コロナウイルス感染症対策推進室(内閣官房)業種別ガイドライン(令和2年11月5日発行)**

新しい生活様式を踏まえ新型コロナウイルス感染症予防と店舗などの事業再開を両立させるために作成された、現在19種類の各業種団体から出されたガイドラインの一覧です。



**感染リスクが高まる「5つの場面」**

これまでの感染拡大の経験から、感染リスクが高い行動や場面が明らかになってきました。感染リスクが高まる「5つの場面」が新型コロナウイルス感染症対策分科会により提言としてまとめられました。



## 作成過程

- 令和2年10月12日 「withコロナ期における雪かきを考えるオンラインミーティング」にて、検討会議メンバーによるwithコロナ期における雪かき活動の課題の洗い出し
- 令和2年10月26日 「withコロナ期における雪かき活動の感染症予防対策を考えるオンラインミーティング」にて、検討会議メンバーによるwithコロナ期における雪かき活動における感染症予防対策の検討
- 令和2年11月30日 withコロナ期における雪かき活動ガイドライン(暫定版)発行
- 令和2年12月15日 withコロナ期における雪かき活動ガイドライン(第1版)発行  
「withコロナ期における雪かきガイドラインの普及を考えるオンラインミーティング」にて、検討会議メンバーによるガイドラインの普及方法について検討
- 令和3年10月12日 withコロナ期における雪かき活動ガイドラインの改訂方針について著者及びアドバイザーによる検討
- 令和3年12月02日 with/afterコロナ期における雪かき活動ガイドライン(第2版)発行

- 発行者:日本雪工学会 除雪安全行動研究委員会
- 著 者:諸橋 和行・木村 浩和・小西 信義
- 検討会議メンバー:「with/afterコロナ期における雪かき活動を考えるオンラインミーティング」メンバー
- 協 力:国土交通省 国土政策局 地方振興課
- アドバイザー:根本 昌宏(日本赤十字北海道看護大学看護薬理学領域 災害対策教育センター)  
上村 靖司(長岡技術科学大学 機械創造工学専攻/越後雪かき道場 筆頭師範代)
- 作 成:一般社団法人 北海道開発技術センター

【お問い合わせ先】

日本雪工学会 除雪安全行動研究委員会 幹事

小西 信義(一般社団法人 北海道開発技術センター 調査研究部)

〒001-0011 北海道札幌市北区北11条西2丁目2-17セントラル札幌北ビル3F

TEL:011-738-3363 FAX:011-738-1889



できることから。

